



## 顧客のニーズに柔軟な思考で対応 汚れを落とすことに特化した事業を展開

**雪国での需要が高い消雪設備の  
パイプ洗浄技術を開発  
インフラ整備のスペシャリスト**

秋田市浜田に本社を置き、現在は鹿角市と横手市にも営業所を構える株式会社管通。代表取締役の中村勤さんは、もともとプラントメンテナンスを行う企業に勤めていた経験を持つ。営業兼技術者として15年勤めた企業から独立し、平成26年に会社を設立した。独自の洗浄技術を武器に、さまざまな「汚れを落とす」唯一無二の企業として急成長を遂げている。これまでの経緯と今後の事業展開についてお話を伺った。

### 整備すれば長く使える コストを抑える技術

株式会社管通の代表取締役を務める中村勤さん。まだ40代半ばと若く、勢いのある経営者だ。大学卒業後、プラントメンテナンスを行う企業に入社し、営業マンとして15年勤務した。営業として得意先を回るだけでなく、現場に技術者としても参加していたという。

「主に火力発電所の配管やタンクの洗浄などを行っていました。プラントやインフラは、全く同じ環境であることが少なく、現場ごとに悩みが違います。自社が持っている技術をある程度カスタマイズして細かい部分に対応しなくてはならない場面が多かったんです」。

中村さんは積極的にアイデアを出し、社内でもその意見が採用される場面が増えていった。一方で、自分で何か始められないかと考えるようになった。年齢も考慮し、転職も視野に入っていた矢先、独立のきっかけとなる出来事があった。

### 消雪設備の詰まりを解消 独自の技術で会社設立

中村さんのもとに、消雪設備のメーカー担当者から「メンテナンスの方法を考えてほしい」と相談があった。消雪設備は、地面に埋設した放熱管に井戸水を通し、地表の雪を溶かすことでその役割を果たしているが、管に井戸水の鉄分やバクテリアが堆積して詰まることがある。当時はこの詰まりを解消するため、大掛かりに掘り起こして作業をする以外に方法がなかったのである。そこで中村さんは埋設したまま行うメンテナンス方法を開発し、これを機会に株式会社管通を設立した。

次第に県内だけでなく、県外からも消雪設備の整備の依頼が来るようになった。今では消雪設備だけにとどまらず、さまざまなインフラについて、相談があるという。

「あきた企業活性化センターの支援を受けながら、自社で特許を3つ取得しており、うち2つは消雪に関するもので、3つめは温泉バイナリ発電に関するものです。温泉バイナリ発電は、高効率ですがなかなか普及しません。パイプが詰まるのが理由だそうです。発電を止めればもちろん除去作業はできますが、発電効率が下がる。そこで、発電を止めずに維持管理できる技術を開発しました。最近では、火力発電所の装置



埋設したままメンテナンスができる管通の技術はニーズが多く、雪国からの依頼が多くあるという。高圧洗浄は業務用の威力を持つため、完全防備で行う。  
 ①特許取得のほか、発明表彰やアントレプレナー賞、起業家大賞など数々の受賞歴もある。  
 ②出張時にも社員が快適に過ごせるよう各営業所には宿泊機能も充実している。

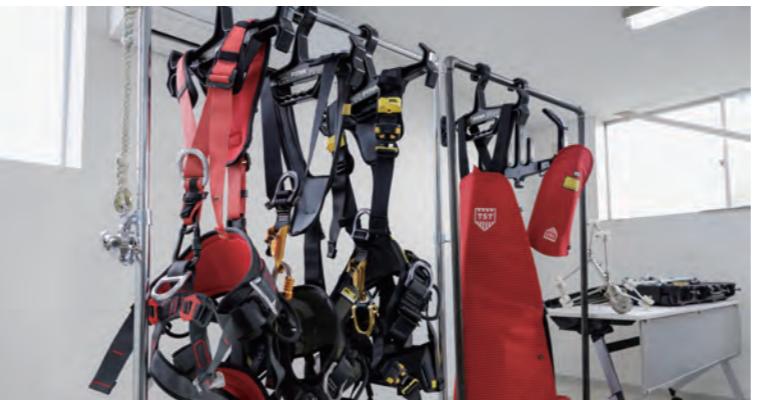
を止めずにフィルターの目詰まりを解消する方法も開発しました」。

### 幅広い情報を収集し、 柔軟に技術を掛け合わせる

中村さんは、クライアントの要望に対応できるだけコストを抑えつつ、満足度と質の高い仕事をしたいという思いからさまざまな機材を導入し、複数の技術を組み合わせて課題解決に取り組んでいる。自らアイデアを具現化する段階ではスタッフからも意見を募る。現在従業員は3名、中村さんを含めて4名で全国各地の依頼に飛び回っているという。

「遠方からの引き合いも多く出張業務もあるため、若い方には敬遠されてしまいがちですが、社会のインフラの整備に関われる仕事でやりがいは大きい。その分、給与水準は高く設定し、評価が給与に反映されるようにしています」。

インフラのメンテナンスをして、長く安全に使おうという企業のニーズに、しっかりと応じて成長している株式会社管通。社会が求める技術と精神がここにあった。



ロープアクセス技術とウォータージェット技術を融合し、新たな技術開発にも取り組んでいる。



株式会社 管通  
代表取締役 中村 勤

〒010-1654  
秋田市浜田字瀧ノ原64-1  
TEL.018-807-5935 FAX.018-807-5642  
<https://www.kantsu.jp/>

◎業務内容 ウォータージェットやドライアイス  
ブラストをはじめとした環境に優しい  
メディアを使用した特殊洗浄業務